

県版レッドリスト改訂：脊椎動物編

岸元良輔・堀田昌伸・北野 聡

前回のレッドデータブックでは、長野県で記録のある脊椎動物417種のうち絶滅危惧種及び準絶滅危惧種の種類数は81種であり、およそ5種に1種（19.4%）が絶滅のおそれのある種類でした。分野別にみると魚類や哺乳類のように絶滅、野生絶滅、絶滅のおそれのある種類が県内で記録のある種類の約5割に達する分類群もありました。前回のレッドデータブック作成から10年以上が経過し、希少種の生息状況や絶滅危惧の要因にもかなり変化が見られています。

魚類では、アユは前回のブックではダムなどで天然遡上は不可能との判断で野生絶滅としました（写真1）。



写真1 西大滝ダムで捕獲されたアユ。後日、耳石微量元素分析から天然遡上であることが確認された。

しかし、2012年度に西大滝ダム周辺で捕獲されたアユの耳石を分析した結果、その個体が天然遡上であることが確認されました。また、スナヤツメでは最近のDNA研究から北方種と南方種があり、長野県内に分布する集団がどちらに該当するのかについても検討が必要となりました（写真2）。

両生類では、トノサマガエルの仲間3種（トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、トウキョウダルマガエル（写真3））について、上伊那や木曾郡など10年前の



写真2 スナヤツメの産卵ペア



写真3 10年前より個体数が半減した地域もあるトウキョウダルマガエル

調査と比較して、個体数が二分の一未満に減少しているようです。

鳥類では、ヨシゴイやヒクイナ、ヤマセミなど水辺に住む鳥たちが10年前よりも見られなくなった印象もっています。また、ライチョウのように山域によって大きく減少している種がある一方で、アカモズのように安曇野や伊那地域で新たな生息地が確認されている種もあります（写真4）。



写真4 安曇野地域や伊那地域で新たな生息地が確認されたアカモズ

哺乳類では、奈良県の大台ヶ原でトガリネズミ類が捕獲されなくなっており、それがシカの影響ではないかというお話をお聞きました。長野県の現状はどうか確認が必要です。

このように、これまで3回の脊椎動物専門部会を開催した中で、委員の先生方から多くの意見が出てきています。今後、委員の先生や各分類群に詳しい方々から意見を集約し、調査の必要な種については現地調査をして、短い時間の中で脊椎動物のリストを改訂していきたいと考えています。